

円蔵自治会だより

合　い　言　葉
みんなWA（輪・話・和）
になるなかよし円蔵

毎日の
あいさつ運動
展開中

平成29年
12月1日
(第69号)

発行責任者
円蔵自治会長小室正明
TEL・FAX 82-9095

11月定例組長会議報告 (主なもの)

1. 円蔵自主防災訓練反省の件
2. アンケート・大掃除の件
3. 餅つき大会（睦雑）の件
4. 移動式ホース放水訓練の件



12月の予定 (主なもの)

- 3日(日) 大掃除・12月組長会議 9:00
- 9日(土) 民生委員との情報交換 13:30
- 12日(火) 12月事務局会議① 9:00
- 27日(水) 12月事務局会議② 9:00
- 28日(木) 円蔵サロン(38) 9:00

『第38回円蔵サロン』のご案内

1. 期 日 12月28日(木)
2. 時 間 午前9時から12時まで
3. 場 所 円蔵自治会館(1・2階)
4. 対 象 老若男女(どなたでも)

●お茶等は準備します。参加費1人100円。

大震災から何を学び、何をなすべきか！！

*昨年『自治会だより12月号』で掲載した平成16年(2004年)10月23日の午後5時56分新潟県中越地域を襲った最大震度7「中越大地震」を経験した「語り部の一部」を、再度ご紹介します。ぜひ、かみしめてください。

①災害時の行政対応には限界あり、1人ひとりの防災対応が、犠牲を食い止める最大手段。人は災害で家が壊れるだけでなく心も壊れる。

②災害時は、地域の団体・組織を活用し、減災に向けて、相互協力する組織づくりが必要。自助・共助・近助の体制づくりが必須条件。

③「天は自ら助くる者を助く」他人からの助けだけでなく、自分で動かなきゃダメ。それを実行していくと、『災い転じて福となす』がみえてくる。

④ビニールハウスを提供。500人がトマトを分け合い、空腹を満たした。貴重な体験。

*上記も右記も、その内容は**生命**に係る事柄です。**近助の絆**を再確認したら、迷わず**「自治会加入」**が必須条件ではないでしょうか。家族のためにも・・・

11/3・防災訓練(安否確認等)実施!!

●この訓練は、家族を救う。家族を守る訓練です!●

『助かる命は、安否確認から!』

『助かるから!、助けられる!』

*心配された雨もなく、快晴の当日は、円蔵地区のチームワーク・底力を垣間見る場面が、至る所で展開されていました。関係皆様のご理解とご協力に、改めて感謝申し上げます。

*対策本部(円蔵自治会館・神明神社境内)には、服部茅ヶ崎市長夜光茅ヶ崎副市長さんはじめ、関係行政・学校のご臨席をいただきました。多くのご助言や励ましをエネルギーにしています。

アンケートから、その一部をご紹介します

● 今回の防災訓練で、ためになったのはどんなことですか？

- ・繰り返し訓練の重要性を再確認。役員としての自覚が高まった。
- ・歩いて近所の状況が分かった。家族での話題が増えた。
- ・近所での顔見知りが増えた。防災意識が高まった。
- ・挨拶の大切さがわかった。高齢者に感謝された。
- ・のこぎりの大切さがわかり、自宅保有します。
- ・組・班の絆が強まった。チェーンソーの実演がためになった。
- ・家具転倒防止法がわかりやすかった。家具固定すぐにやります。
- ・自らの危機行動の必要性も再認識。地域連携の重要性を再確認。



● 次回、どんな訓練をしてみたいですか？

- ・AED訓練。津波対策訓練。起震車体験。応急処置。台風訓練。
- ・消火器訓練(組単位で)。ペット対応訓練。炊き出し訓練。
- ・避難訓練(含む障がい者)。千の川氾濫想定訓練。無線訓練。
- ・もっと本格的な訓練。安否確認に目印訓練。現方法で進化を。

● 実行委員会への要望・改善点をお書きください。

- ・実演が見づらかった。班長に名札を(安否確認時)。
- ・自治会未加入者への対応は。実施日の検討を。
- ・説明は簡潔・明瞭に。周知方法に工夫を。
- ・トランシーバーの補充を。ヘルメットの補充を。



● その他

- ・災害時、この訓練ができるのか。班が広すぎて大変。
- ・災害時、自治会防災会は機能するのか。実際の避難場所は。
- ・地区で集約されたものが、本当に公助に役立つのか。

編集後記

*円蔵自主防災訓練も『安否確認とライフライン状況報告』を主として3年目。現・前組長(22人)、現・前班長(236人)はじめ関係団体等(62人)で、合計320人が役員として担当。

*『円蔵からの被災者ゼロ!!』を目指して、今後も継続していきたいものです。大災害時に、公助への期待は、むずかしい!!